



令和6年度なはSDGs推進事業（多様なつながり地域づくり）

持続可能な地域拠点を考える 地域円卓会議

味噌でつなげる多世代型地域拠点「よりみん」。
その活用・地域参画、そして事業の継続について考える

実施報告書

日 時： 2024年11月17日(日)14:00-17:00
場 所： 沖縄大学アネックス 共創館（沖縄県那覇市国場 405）
共 催： 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団沖縄事業所、那覇市
企画運営： NPO 法人まちなか研究所わくわく
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】持続可能な地域拠点を考える地域円卓会議



- 日時：2024年11月17日(日)14:00-17:00
- 場所：沖縄大学アネックス共創館(沖縄県那覇市国場 405)
- 着席者数：9名(論点提供者、司会、記者を含む)
- 参加者数：34名(地域拠点運営者、校区まち協、自治会、行政、企業等)
- 共催：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団沖縄事業所、那覇市
- 企画運営：NPO法人まちなか研究所わくわく
- 協力：公益財団法人みらいファンド沖縄

論点提供

城間 えり子 氏(労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 沖縄事業所)
島袋 隆志 氏(沖縄大学経法商学部経法商学科 教授、
 (一社)日本社会連帯機構沖縄県本部 共同代表)

味噌でつなげる多世代型地域拠点「よりみん」。 その活用・地域参画、そして事業の継続について考える

こども食堂等、全国で様々な境遇や世代の方々の共生を目指した地域拠点が立ち上がり、多くの成果を上げています。しかし、その事業を持続していくためのリソースは不足しがちで、過度なボランティアへの負担や属人的な要素が多く、その事業の持続に関しては確立されたモデルは見えないという現状です。そんな中、那覇市寄宮地域に立ち上がった多世代型地域拠点「よりみん」は、近隣の豆腐業者のおからを活用した味噌床の製造というコミュニティビジネスを拠点内に実装し、その持続性や地域参画の間口を広げるチャレンジを行っています。今回の円卓会議では、「よりみん」のチャレンジを共有しながら、子どもから高齢者だれもが自由に集える場所の必要性を理解し、多くの方々の参画により、大切な地域拠点を維持する仕組みを考えます。

センターメンバー

						
城間 えり子 労働者協同組合 ワーカーズコー プ・センター事 業団 沖縄事業所	島袋 隆志 沖縄大学経法商学部 経法商学科 教授、 (一社)日本社会 連帯機構沖縄県 本部 共同代表)	瀬名波 淳 那覇市立真和志 小学校 校長	譜久里 広太 那覇市立真和志 小学校 PTA 会長	野原 郁美 ワクワク ゆんたく食堂	仲宗根 悦子 株式会社仲宗根 糺家 代表取締役 社長	船谷 香 沖縄子育て良品 株式会社 代表取締役

持続可能な地域拠点を考える

地域円卓会議

2024.11.17(日)

14:00~17:00

④ 沖縄大学アネックス共創館

味噌でつなげる多世代型

地域拠点「よりみん」。

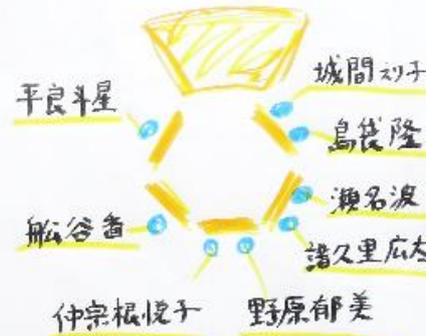
その活用・地域参画、

そして事業の継続について

考える。 なはSDGs推進事業 ~多様なつながり地域づくり~

共催 労働者協同組合ワーカーズ・センター事業団沖縄事業所、那覇市

企画運営 NPO法人まちづくり研究所わくわく 協力 公益財団法人みらいファンド沖縄



論点提供

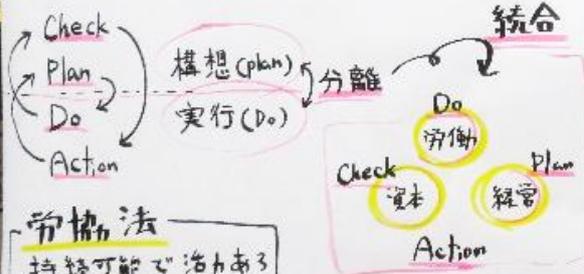
城間えり子

島袋隆志

新しい働き方 協同労働

ワーカーズ・コープ (労働者協同組合)

地域をだてと仕事に



労働協法

持続可能な活のある地域社会に望む事業(業)行

よりみん

2023.9月~

子どもの居場所
2023/24 (10回)

味噌づくり

「おから味噌床」の製造

- 多世代型コミュニティの居場所作り
- 豆腐製造から出るおからの有効活用
- 地域ブランドの構築策、新しい食文化の提案
- 新しい働き方の提案 (協同労働)
 - 働きを通じた生涯学習

課題と挑戦

安定した収益の確保

事業運営の持続可能性

活動の社会的意義の周知と共感の醸成

協同労働の普及

地域ブランド目録として、販促活動

仲宗根悦子 さん
株式会社仲宗根 経営者

みそ → 7つの解毒
国産米の米糀

こうじの使い方よさを
⇒ 週1回 知ってもらう講座

産 米糀
塩(天然)
おからみそ

譜久里広太 さん
真知志小学校 PTA 会長

どうやって地域に定着するか。
小PTA、小校区まわりの協議会
ワーカーズコープ 勉強会 - 2年前おぼれ
建築 キソンの建物を活用してまわく

みそづくり、1Fの店がある。
地域にひらかれる場
人が入りやすい

キャッシュポイント
ちびうがある。おから半年の肉つかえる。

瀬名波 淳 さん
真知志小学校 校長

- 145年、沖縄で1番歴史のある学校
- コロナ、2年間、教頭
- 子どもたちの居場所 ありことよ
- あそぶ公園が「少ない」 → 学校であそんでいる? 多い
- 444名 (児童)
- 認知あがれば、
- 不安より、関わりを持っていきたい

みそをどうやって売るか。
ワーカーズコープのネットワーク。
→ 知ってもらえれば、買ってもらえるのではないかと。

野原郁美 さん
ワフワフかんたく食堂

繁タツ川市営住宅自治会 集会所

毎月ホ1.3 土曜日 (2回) 12~13名のメンバーで

2018年~
3つの小学校 エリア
子ども会ない。地域コミュニティと大事に。

コロナで弁当の売りかえり。

子ども食堂 → ボランティア運営
助成金 → たいへん、ほんごう。スタッフに支払い

戦争体験者のおもてなし 大事に
お話しをきくキカイついで

よりみんなとどんなコラボができるか
「自治会明るくなったね」 考えてみたい

認知症ケア、見守り隊たちあひへ。 **他者と拠点**

船谷 香

21年目
カフェ open 11ヶ月。

商品開発してるのが楽しい

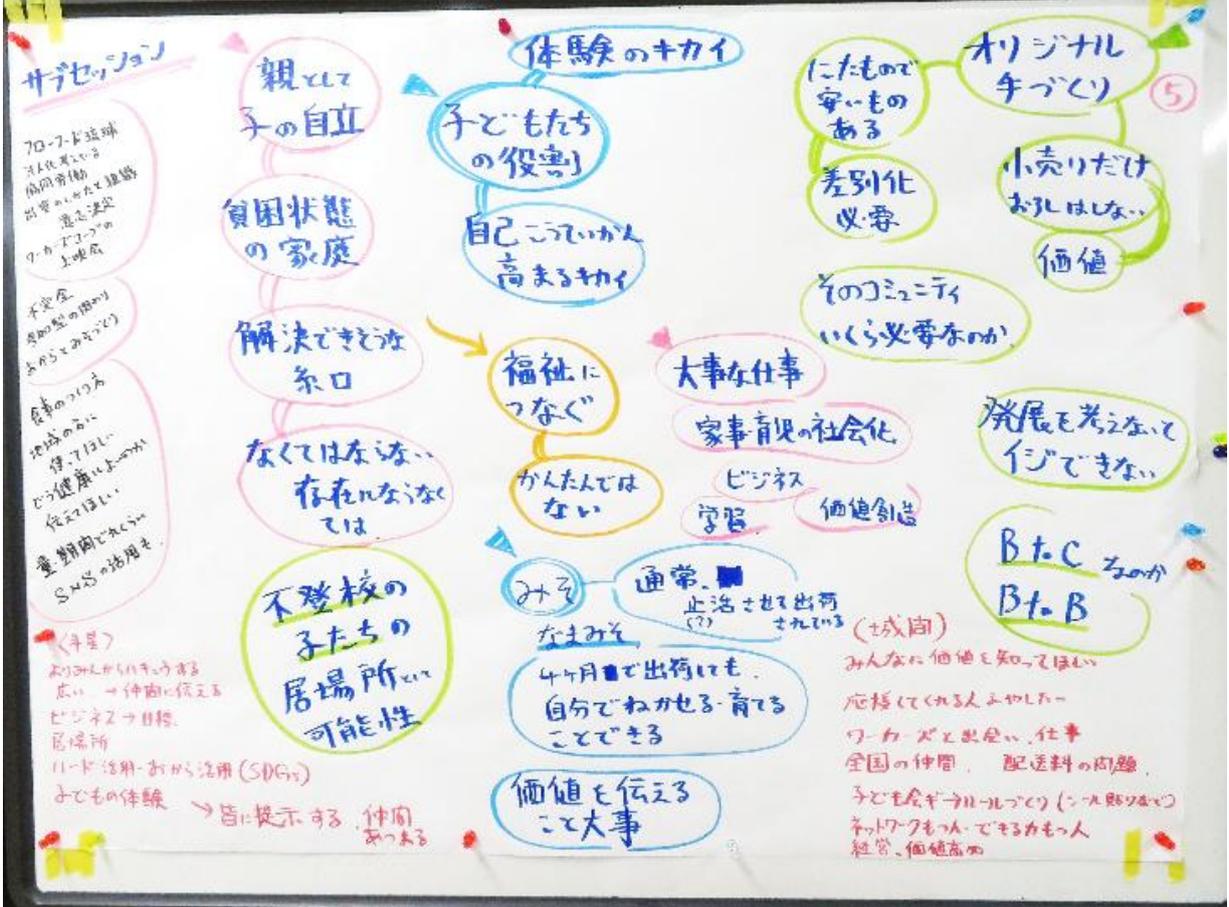
どんな風に、誰に売りたいか。
どのエリアで売りたいか。

自分のかかっている課題の解決
につながると売れる。

どこまでビジネス的なことを入れるか。
コミュニティの課題

みそは必要不可欠なもの。
なぜおみそなのか。

- おみそでつながるネットワーク
- つくるだけでなく、教室でひらげる
- つくれる人は信頼できる人から買う



➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

1) よりみんの価値についてみんなで議論し確認

まずは、よりみんが維持されることで、寄宮地域もしくは真和志地域のどんな課題が達成されるのかを確認すべき。確認方法として、

- ・ すでによりみんとつながっている人
- ・ 利用してほしい人
- ・ みそのユーザー

等の参画を得ながら、よりみんの持つ課題解決力や創造される価値について議論し共有すること

2) 円卓会議や振り返りで上がったよりみんに関わるテーマ

- ・ 地域の子どもたちが抱えていること
- ・ 真和志地域に愛着を持てること
- ・ 真和志地域に住み、地域内で働くこと

これらの巻き込みによってつながりが増えることで、おからみその関係者を増やし、売り上げの確保にもつながると考える。

持続可能な地域拠点を考える地域円卓会議

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

- ①
- ・ 今までのみそとよりみんなのみそは食事のつくり方がちがうので私たちの時代は毎日みるさつがっていた
 - ・ みなさんにみそを使ってもらいたい
 - ・ おからみそが健康にどういいか説明する
 - ・ どのくらい作れるかと、どのくらいで出来るのか
 - ・ 良いものは使ってみたいという好奇心
 - ・ 値段への課題
 - ・ よりみんなの入口がさみしい
 - ・ 販売をするためには、SNSなどの活用も必要
 - ・ 大量に使うための工夫
 - ・ 半年ねかすためのよゆうがあるのか
 - ・ ぬかどこ、より手間がかからない
 - ・ こうじとおからを混ぜた時みそもできるしこうじづけもできる
- ②
- ・ 読谷でドラゴンフルーツ農家
→協同労働のテーマ「農業」
→地域づくり、土地、自然環境、人間関係、ビジネスチャンス
 - ・ 無農薬、6次化
 - ・ 土壌育てる
 - ・ 台風につよい
 - ・ 直接販売してる
 - ・ 地域づくり一目標設定
 - ・ 大宜見でカカオ
- ③
- ・ ネットワーク作り上手。→役割分担 自治会
 - ・ 子ども～高齢まで、どう関わるか→仲間増やし
 - ・ 誰もが興味をもってくれること。
- ④
- ・ ビジネスモデル。えり子さんが出来ることを
 - ・ 資金アイデアがでてくれば
 - ・ 同世代の協力
- ⑤
- ・ 子ども不登校—地域での居場所づくり→NP03人
 - ・ ヘルパー事業
 - ・ 地域に
 - ・ スローフード琉球
 - ・ 食文化の継承
 - ・ 法人立ち上げの参考に
- ⑥
- ・ 行政は一部しか関わらない
 - ・ 居場所—予防が大事
 - ・ 学校余裕ない。安全面のみ。教育の土台が危ない。育ちのサポート
 - ・ コミュニティビジネス、居場所
 - ・ コミュニティづくり→気になる
 - ・ 企業トップダウン
 - ・ 社員が自発的に動けない
 - ・ 協同労働対話⇔下っ端の意見 よりよい意思決定
 - ・ 居場所があることで自治会も活性化する
 - ・ 11/27 (水) ボランティアマッチング会参加するかも
 - ・ 福岡グリーンコープ協同労働
 - ・ 福祉部門あり
 - ・ 環境にいいもの
- ⑦
- ・ 働き手
 - ・ ボランティア→こづかいがほしい→シニア→スキルのある人

- ・ 有料のボランティア→喜びがある
- ・ 自分達で給料が決める事が出来る
- ・ 全国からアドバイスがえられる
- ・ 居場所的な場所になる
- ・ 場所がほしい人に使ってもらえる
→チラシを作る。絵を書いてもらえる
- ・ 出来る人、手伝ってくれる人は必ずいる

⑦

- ・ 「不完全」が良い!! (参加型だからいい!!)
手をつなぐ
みんなで育てる!!! よりみん=味噌

⑧

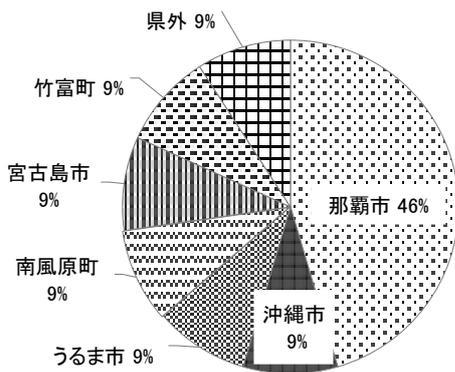
- ・ 「子供の居場所」@宮古
補助資金はあり・・・みらいファンドから
使いかって良い
自主事業・・・未定
委託費・・・行政より
企業からの寄付→人件費だめ
人件費ないと持続できない!!
- ・ 宮古狩俣地区の話をきく
関係人口を増加
まちから去った子供たち帰ってこない
→関係人口（観光客、、、旅人）を巻き込む

持続可能な地域拠点を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

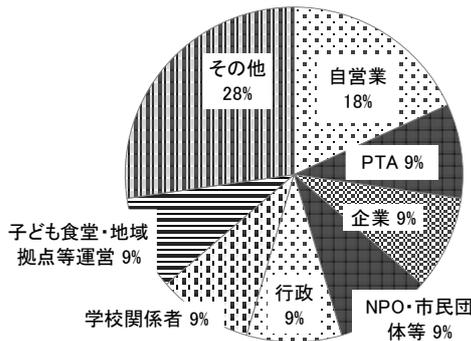
◆概要

- ・日時：2024年11月17日（日）14:00-17:00
- ・場所：沖縄大学アネックス 共創館
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：34名（地域拠点運営者、校区まち協、自治会等）（アンケート回収11名、回収率32%）

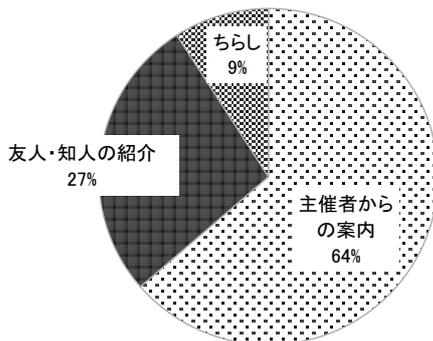
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.7（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
8名	3名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 私の少し関わっている「よりみん」の課題を共有して協力したいと思っている
- ・ “持続可能な未来づくり”のテーマでの皆さんのお話はとてもよかった。初めて円卓会議に参加しましたが、見てよかった！自分のできることを考えて私なりに行動していきたいと思いました
- ・ 論点提供の方々が普段聞くことのできない（自己紹介を含め）話を伺う事が出来、初めて参加した円卓会議、よかった！と思いました。「よりみん」のやわらかさが素敵です。
- ・ 協同労働、PDCA の考え方、ビジネスとしてどう考えるかなど意見が多くよかった
- ・ よりみんの取組みがとても多面的で興味深い。パネリストに知り合い（女性）が多く、お互いにつながることで楽しかったです
- ・ いろんな可能性を感じた
- ・ 様々な方々のお話が聞けたので
- ・ 円卓会議特有の初めてお会いした人たちともフラットに意見交換ができた体験について、改めて良いものだと思います
- ・ 休憩・試食のタイミングが適切でした。学区の校長先生や PTA 会長が面白い方々だったのも、よりみんの強みだと感じました

（4. 概ね満足）

- ・ 議論は二つあった。居場所は大切だよね、で

もそれを維持できないよね。今日は、後者メインの話だと思ったが前者のボリュームが多かった印象。持続可能の課題をワーカーズコープでどこまで対応できるか絞ってほしいかった

- ・ よりみんの活動の紹介がよくわかった。これからの課題や仲間づくりのスタートとして good !
- ・ 他団体との意見交換ができた

6. 印象に残った事や良いアイデア

- ・ 子どもの居場所だけでなくお母さんたちの居場所と地域の人と働く場所を目指している所
- ・ 船谷さんの商品開発している時が一番たのしい、の意見に同感です。ビジネスアドバイスは参考にして下さい。あくまで城間えり子本人の思いと行動で実現できると信じています。おからみその価値を伝えることが大事なんですね。パパイヤのみそづくり食べたいなー
- ・ 維持だけ考えれば、発展を考えなければ、衰退してしまう、は大切だと思います。おみそがどれ程健康に良いかよくわかりました
- ・ おからみそどこの価値向上
- ・ 電柱商店！
- ・ 協同労働・労働形態、地域の課題解決についての議論、味噌の可能性
- ・ 現行補助金が使にくいことが共有されていることがわかった。行政もこの辺はソロソロ考えてほしい
- ・ 計画を立てて予算を明確にすることが大切だとわかった
- ・ よりみんがどのような場所になっていくか、まだまだこれから地域の皆さんと創られていく過程にあるということを今回の円卓会議で知りました。運営スタッフ同士はもちろん、地域住民や外部の方々と積極的に対話することで、色んなアイデアが生まれ、今後の展開を皆さんで描く余白があることも、よ

りみんの魅力の一つだと思いました

- ・ おからみそという強みを活かし、地域住民から愛される拠り所となるよう、運営に関わる皆さんがそれぞれの得意や関心分野で小さな目標達成を積み重ねていくことが好循環を生み出すコツなのかなと思いました
- ・ 不登校や子どもの貧困支援においては、子どもに焦点が寄せられがちですが、よりみんは地域の中にある強みを活かし、子どもを抱える家庭を支援することで、住民にとって安心できる居場所として定着していくと良いなと思いました
- ・ 同様な悩み、課題がある

7. 会議運営に関しての意見、感想

- ・ 大学内ですることによって学生さんも参加してもらいたい。色々な意見を出してもらうことと、地域の人達との交流の場として活用していることがすばらしい
- ・ すばらしい板書でした。とてもわかりやすい
- ・ 司会進行がすばらしいです。野原さんからの宿題は大切だと思います。会議進行と同時に記録をしてくださり、終了時のまとめはありがたかったです
- ・ 全員参加して皆で考える会議になっていました
- ・ 円卓会議、いい手法ですね！
- ・ 発表者の人柄を掘り下げたのは面白かったです
- ・ ロケーションがよく窓からの風景を楽しみました。大雨が晴れてよかった。帰りの心配だった
- ・ よりみんの見学会かとをやって仲間を広げられないでしょうかね！
- ・ 訪問したことがないので開催場所はよりみんでも良かったのではないかなと思いました。が、人数的に厳しかったのか、アクセスが悪いのか、会場にできなかった事情が気になりました
- ・ おからみその試食と販売があったことで、その場でビジネスアイデアが参加者からざっ

くぼらんに出たことが良かったと思います

- スムーズな運営での確な進行でした

(写真) 会場の様子



働き手

ボランティア

↓
ボランティアの増加

↓
有料ボランティア
↓
ボランティアの増加

自分達に給料が
決まる事が出来る。
・全国からボランティアが
入ってくる。

→ 雇われ

お金の

「子供の居場所」の運営
（非営利）
補助金（国・自治体）
自主事業（収入）
寄付金
企業からの寄付 → 人件費
人件費の削減

計画的な地区の運営

関係人口を増やす

手から手への子供を育てていく

関係人口（親戚・友人・施人）
を育てる

居場所的・場所的

場所的・人的
↓
行事
↓
絵画

本来的に、ボランティアは
必要

・ 子供も不登校 - 地域での
活動所作り → NPO 3人
11.11.11 - 事業

・ 地域に

「不完全」がよい!!
(各々の型だから...!!) 手をつなぐ
よ!おん = 味噌